

洗足学園音楽大学

邦楽 冬の演奏会

2022年12月10日（土） 14：00開演（13：30 開場）

洗足学園音楽大学 シルバーマウンテン1F

主催：洗足学園音楽大学・大学院

協力：現代邦楽研究所

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでの飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【プログラム】

- ・「アルマの雲」吉村弘 作曲
I 箏：中村美優/産形典子 II 箏：川田健太/陳卓
- ・「明鏡」杵屋正邦 作曲
尺八（笛）：馬新凱 三絃：染谷美里
- ・「銀河」沢井忠夫 作曲
三味線：郝翼田 箏：中村美優
休憩
- ・「さらし幻想曲」中能島欣一 作曲
三絃：染谷美里 箏：川田健太 フルート：村松紀親
- ・「山々の精霊」Marty Regan 作曲
笛：馮蕊
- ・「みえ幻想」長澤勝俊 作曲
尺八（笛）：馬新凱/山本一心 三絃：郝翼田/染谷美里
箏I：川田健太 /陳卓/磯部桐笛 箏II：産形典子/吉原佐知子
十七絃：中村美/碓井由希子 打楽器：佐々木和奏

【出演者】

馬新凱（院2：笛） 陳卓（院2：箏） 郝翼田（院1：津軽三味線）
中村美優（学4：箏） 川田健太（学3）
馮蕊（修了生：笛） 産形典子（卒業生：箏） 染谷美里（卒業生：津軽三味線）
村松紀親（院2：フルート） 佐々木和奏（学1：打楽器）
碓井由希子（現邦研） 磯部桐笛（現邦研） 山本一心（現邦研）
吉原佐知子（講師）

【司会】

松尾祐孝（GHコース教授）

【スタッフ】

山口賢治（AC） 谷川和弘（箏屋） 吉川麻衣/伊藤友香（受付フェロー）

【曲目解説】

1 「アルマの雲」吉村弘 作曲

箏というとお正月の音としか思い出せないのは、私の邦楽器に対する認識が浅いせいだけなのではないでしょうか。こういった先入観を取り去って、新しいサウンドが作れないものだろうか。NHKから邦楽器のための作品を委嘱されたのを機会に、放送メディアを有効に使って箏の新しい一面を引き出してみようと試みた最初の作品です。四つの章がから成り立っていますが、どの章もそれぞれ異なったズレが生まれるようになっています。雲がゆっくりと変化していくように、指さきで絃をはじく奏法で木装ハープといった音色を作りだしていきます。機を織るようにミニマルな音型がズレあって、別のサウンド・パターンが浮かび上がってきます。一つでも音を抜かすと、織り目がずれてしまうので演奏の難しい曲になってしまいました。この曲を書いているとき、オランダの友人から女兒誕生の知らせを貰いました。彼女の誕生を祝って「アルマの雲」と命名。 【作曲者】

2 「明鏡」 杵屋正邦 作曲

尺八と胡弓に代って三曲構成の一翼を担うようになってから既に久しく、今では一般に、尺八の合奏は箏曲系の楽器や奏者によるものが最も自然で、且つ、融合しやすいと考えられているようです。正にその通りであろうかとも思われますが、翻って、尺八本曲、就中、琴古流系の演奏に想いを致す時、その間合いや呼吸法には、長唄を含む三味線音楽のそれと極めて相似するものがあり、そこに新しい組合せの可能性を感取することが出来ます。

〔明鏡〕は作曲者のそのような受けとめ方の適否を具体的に知る処の一つとして書かれた作品です。先ず遅い部分のやりとりに始まり、次に軽快な動きからやや長めのフレーズの交互演奏、転じて急速調となり最後に冒頭と異なる曲調をもって終わります。【作曲者】

※今回は尺八パートを横笛で演奏をいたします。

3 「銀河」 沢井忠夫 作曲

箏は日本のハーブなどによく言われるが、私はこの表現を好まない。しかし、楽器の構造上、音色的には非常に近いことは事実である。それにも拘わらず、そこから求める音楽の方向がまるで違うのは、その楽器を育てた人々の生活の違いであって、例えばそれは洋舞における空を翔けるような表現と、日舞の大地に根をはったような舞いかたの違いとも共通するものであろう。そんなことを考えながらも、しかしこの曲では箏にハーブ的な表現を意識的に与え、三弦には対照的に土俗的な性格を持たせてみた。二つの非常に違った世界の組み合わせである。1984年8月作曲。【作曲者】

4 「さらし幻想曲」 中能島欣一 作曲

古典曲である「さらし」の旋律の中からいくつかの特徴的旋律を取り出し、それらを自由に変化 発展させ、縦横に組み合せた箏、三絃、フルートによる三重奏曲である。近年はフルートの代わりに尺八で演奏されることが多い。第1、3章はそれぞれのパートが手の込んだ早いパッセージを奏し、非常に緊張を持って絡み合う急速調、第2章はフルートの叙情的な旋律を表面に出した緩 徐調となっている。1943年作曲。

【JSCM邦楽器による音楽づくりワークショップ・コンサートプログラムを参照】

5 「木枯らしの詩」 Marty Regan 作曲

本作品は美しい山々のある地域での暮らしの特徴について、音楽的に描いてみようを試みた。美味しい水、綺麗な空気、川の流れの音、驚くべき自然の美しさ、エネルギー、そして賑やかな祭りを思い浮かぶ。【作曲者】

6 「みえ幻想」 長澤勝俊 作曲

第9回国民文化祭開催を記念し、三重県民謡をモチーフに構成した作品です。曲は「尾鷲節」「鈴鹿馬子唄」「伊勢音頭」の三曲を中心に据え、海と山と里の豊かな自然の幸と、その長い歴史に輝くうましくに三重を三曲の調べにのせたうたいあげたものです。

【公刊楽譜】

※今回は尺八パートを横笛で演奏をいたします。



洗足学園音楽大学